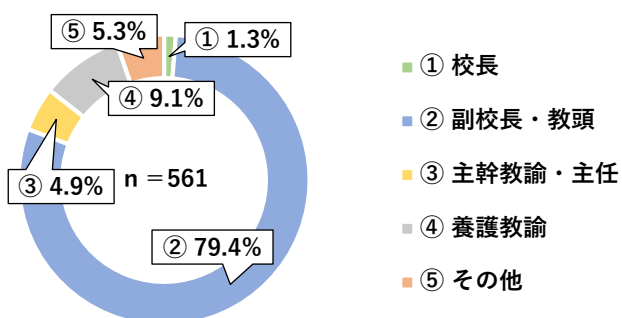


B-⑤ 中学校及び高等学校（公立）

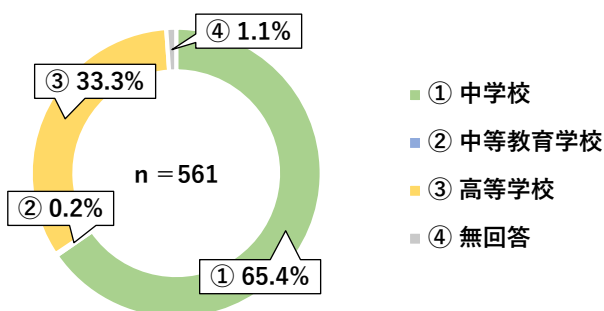
問1 回答者の役職・職種

* 回答者の役職・職種は、「② 副校長・教頭」が79.4%で最も多く、次いで「④ 養護教諭」が9.1%となっています。



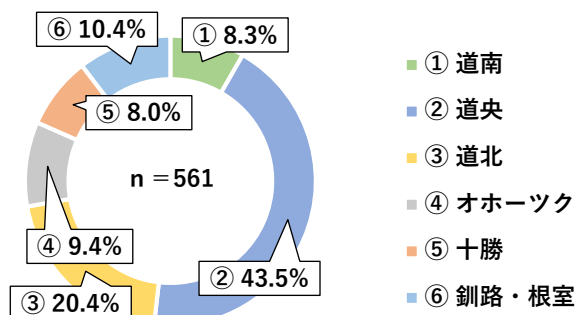
問2 回答者の学校区分

* 回答者の学校区分は、「① 中学校」が65.4%、「② 中等教育学校」が0.2%、「③ 高等学校」が33.3%となっています。



問3 回答者が所属する学校の所在地

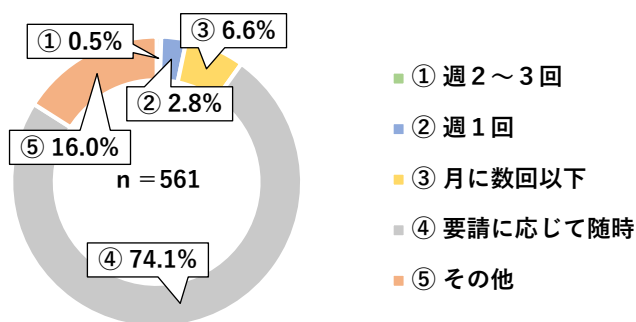
* 回答者が所属する学校の所在地は、「② 道央」が43.5%で最も多く、次いで「③ 道北」が20.4%となっています。



B-⑤ 中学校及び高等学校（公立）

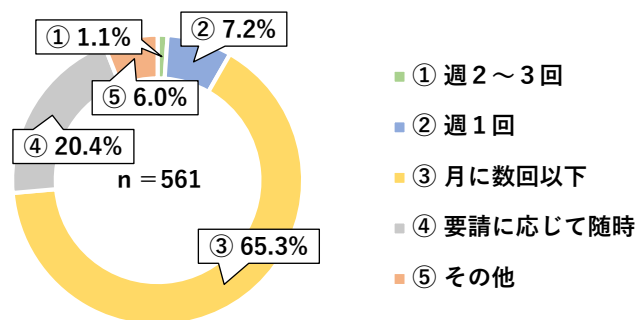
問4(1) スクールソーシャルワーカー（SSW）の派遣・配置状況

* SSWの派遣・配置状況は、「④ 要請に応じて随時」が74.1%で最も多く、次いで「⑤ その他」が16.0%となっています。



問4(2) スクールカウンセラー（SC）の派遣・配置状況

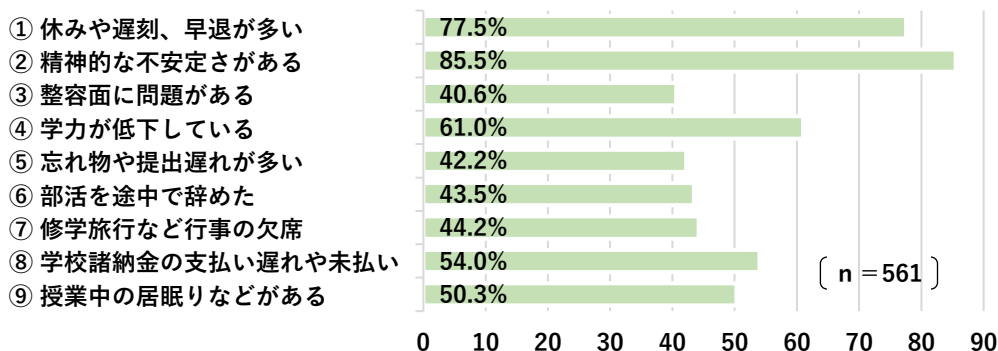
* SCの派遣・配置状況は、「③ 月に数回以下」が65.3%で最も多く、次いで「④ 要請に応じて随時」が20.4%となっています。



問5 要支援生徒が抱える課題の内容

複数回答

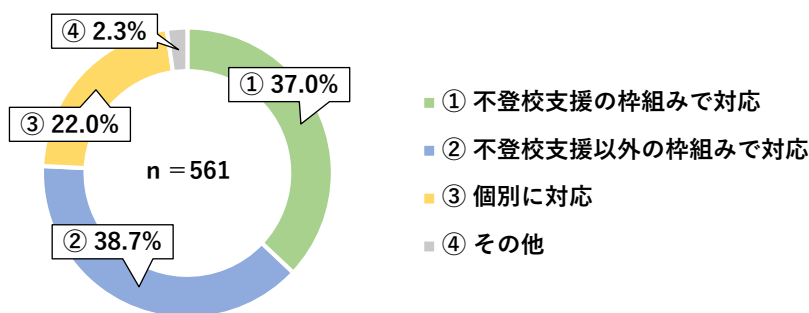
* 要支援生徒が抱える課題の内容は、「② 精神的な不安定さがある」が85.5%で最も多く、次いで「① 休みや遅刻、早退が多い」が77.5%となっています。



B-⑤ 中学校及び高等学校（公立）

問6 要支援生徒への対応方法

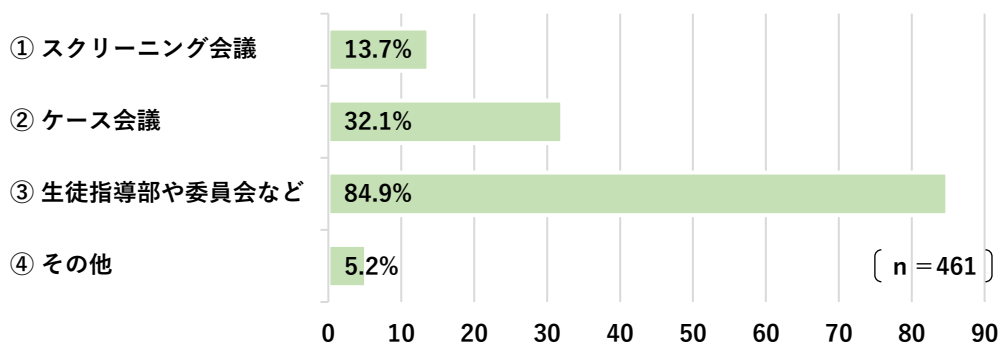
* 要支援生徒への対応方法は、「② 不登校支援以外の枠組みで対応」が38.7%で最も多く、次いで「① 不登校支援の枠組みで対応」が37.0%となっています。



問7(1) 要支援生徒に関する情報共有や検討の場

複数回答

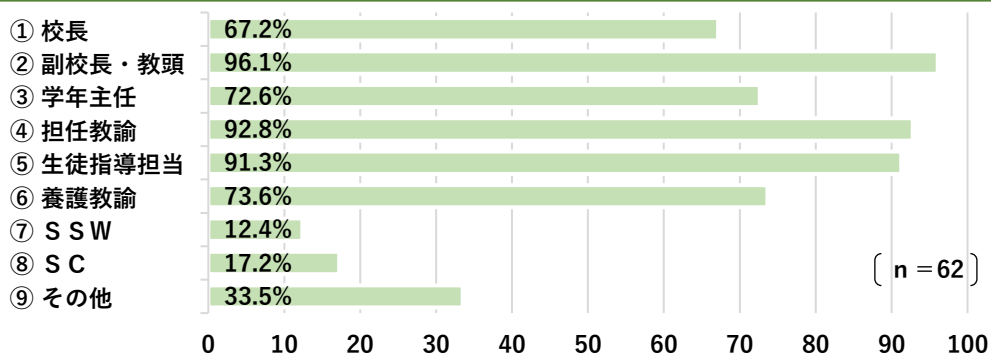
* 要支援生徒に関する情報共有や検討の場は、「③ 生徒指導部や委員会など」が84.9%で最も多く、次いで「② ケース会議」が32.1%となっています。



問7(2) 検討の場（スクリーニング会議）に参加する職員の役職・職種

複数回答

* 参加者の役職・職種は、「② 副校長・教頭」が96.1%で最も多く、次いで「④ 担任教諭」が91.3%となっています。

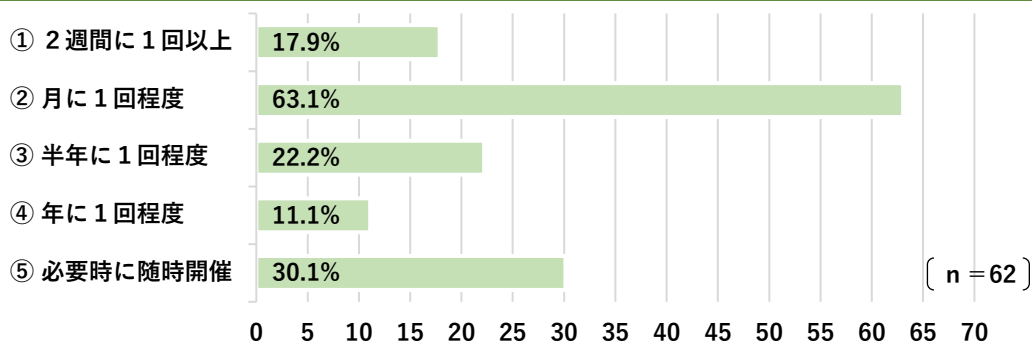


B-⑤ 中学校及び高等学校（公立）

問7(3) 検討の場（スクリーニング会議）を開催する頻度

複数回答

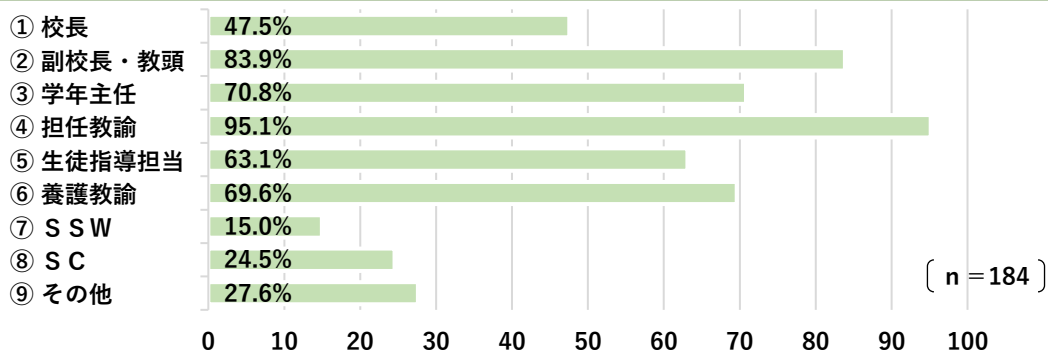
* 開催頻度は、「② 月に1回程度」が63.1%で最も多く、次いで「⑤ 必要時に随時開催」が30.1%となっています。



問7(4) 検討の場（ケース会議）に参加する職員の役職・職種

複数回答

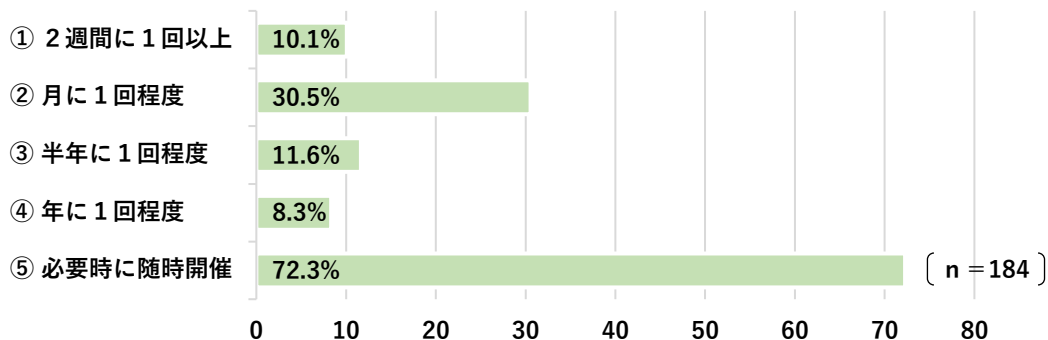
* 参加者の役職・職種は、「④ 担任教諭」が95.1%で最も多く、次いで「② 副校長・教頭」が83.9%となっています。



問7(5) 検討の場（ケース会議）を開催する頻度

複数回答

* 開催頻度は、「⑤ 必要時に随時開催」が72.3%で最も多く、次いで「② 月に1回程度」が30.5%となっています。

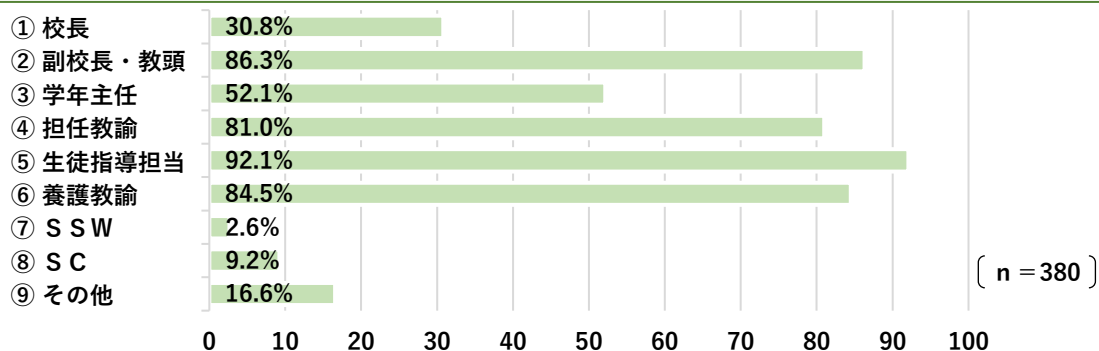


B-⑤ 中学校及び高等学校（公立）

問7(6) 検討の場（生徒指導部・委員会）に参加する職員の役職・職種

複数回答

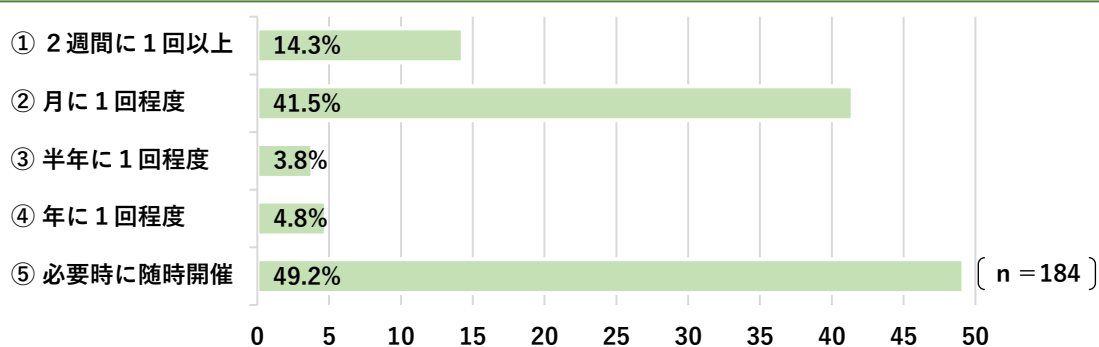
* 参加者の役職・職種は、「⑤ 生徒指導担当」が92.1%で最も多く、次いで「② 副校長・教頭」が86.3%となっています。



問7(7) 検討の場（生徒指導部・委員会）を開催する頻度

複数回答

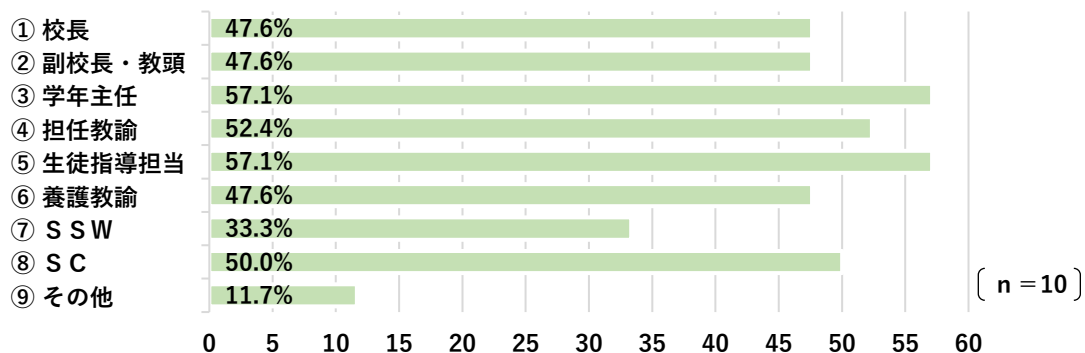
* 開催頻度は、「⑤ 必要時に随時開催」が49.2%で最も多く、次いで「② 月に1回程度」が41.5%となっています。



問7(8) 検討の場（その他）に参加する職員の役職・職種

複数回答

* 参加者の役職・職種は、「③ 学年主任」「⑤ 生徒指導担当」が57.1%で最も多く、次いで「④ 担任教諭」が52.4%となっています。

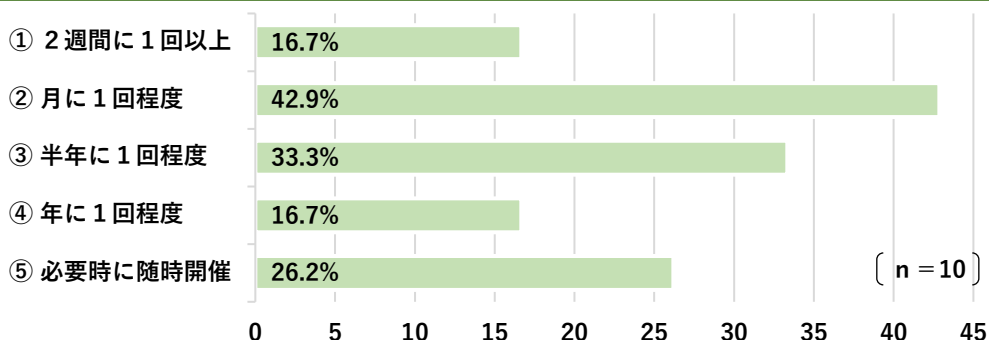


B-⑤ 中学校及び高等学校（公立）

問7(9) 検討の場（その他）を開催する頻度

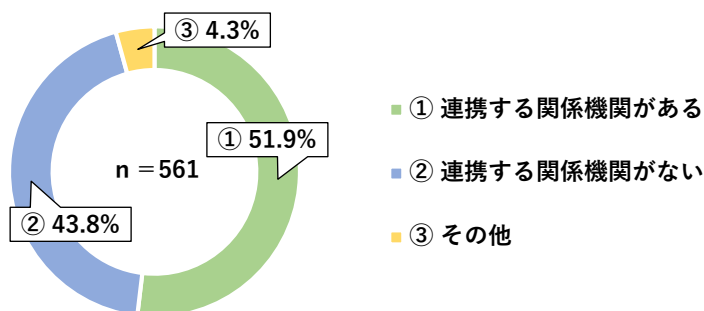
複数回答

* 開催頻度は、「② 月に1回程度」が42.9%で最も多く、次いで「③ 半年に1回程度」が33.3%となっています。



問8(1) 要保護ケースへの対応を検討する関係機関との連携体制

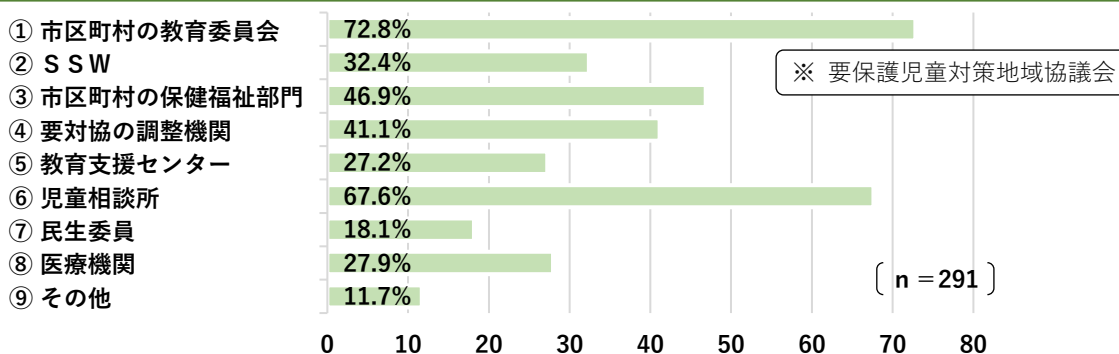
* 関係機関との連携体制は、「① ある」が51.9%、「② ない」が43.8%で、概ね同程度の割合となっています。



問8(2) 要対協※登録ケースに関する連携先

複数回答

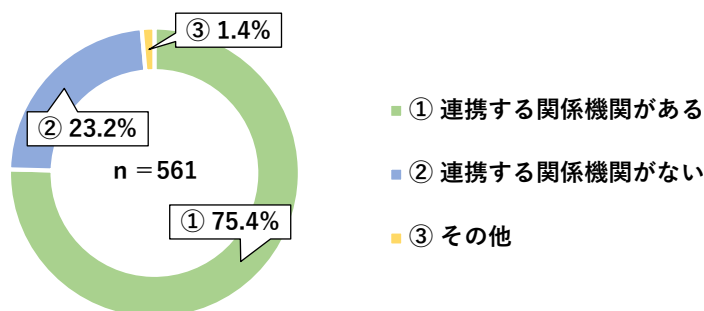
* 連携先の関係機関は、「① 市区町村の教育委員会」が72.8%で最も多く、次いで「⑥ 児童相談所」が67.6%となっています。



B-⑤ 中学校及び高等学校（公立）

問8(3) 不登校ケースへの対応を検討する関係機関との連携体制

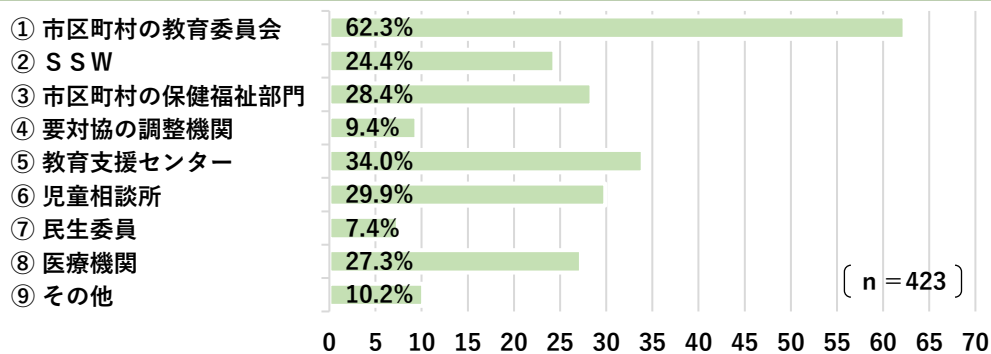
* 関係機関との連携体制は、「① ある」が75.4%となっており、「② ない」の23.2%を大きく上回っています。



問8(4) 不登校ケースに関する連携先

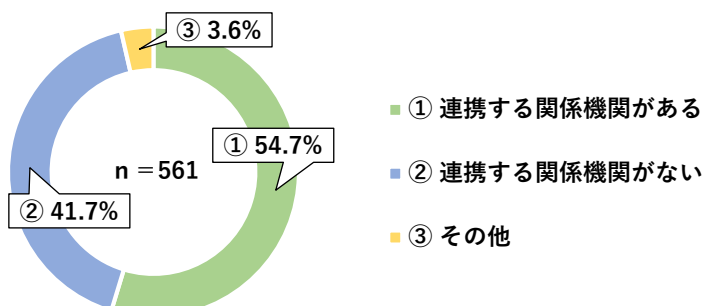
複数回答

* 連携先の関係機関は、「① 市区町村の教育委員会」が62.3%で最も多く、次いで「⑤ 教育支援センター」が34.0%となっています。



問8(5) その他の要支援ケースへの対応を検討する関係機関との連携体制

* 関係機関との連携体制は、「① ある」が54.7%、「② ない」が41.7%で、概ね同程度の割合となっています。

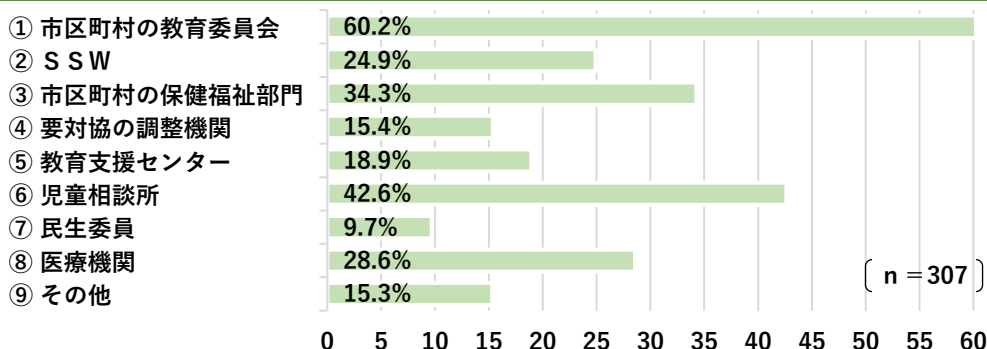


B-⑤ 中学校及び高等学校（公立）

問8(6) その他の要支援ケースに関する連携先

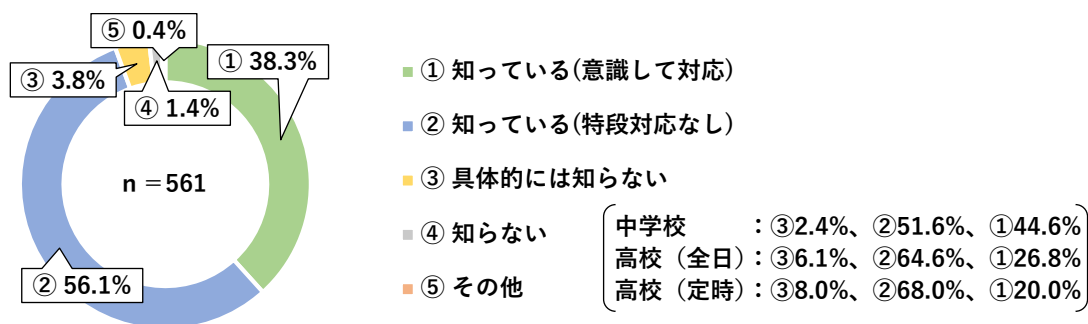
複数回答

* 連携先の関係機関は、「① 市区町村の教育委員会」が60.2%で最も多く、次いで「⑥ 児童相談所」が42.6%となっています。



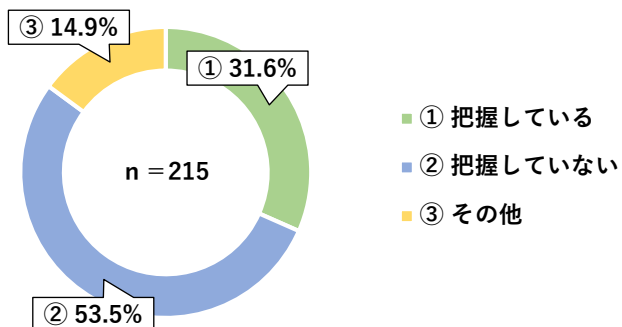
問9 「ヤングケアラー」という言葉の認知度

* 「ヤングケアラー」という言葉の認知度は、「① 知っている(意識して対応)」 「② 知っている(特段対応なし)」を合わせると9割を超えています。



問10(1) 校内におけるヤングケアラーの実態把握

* ヤングケアラーの実態把握は、「② 把握していない」が53.5%となっており、「① 把握している」の31.6%を大きく上回っています。

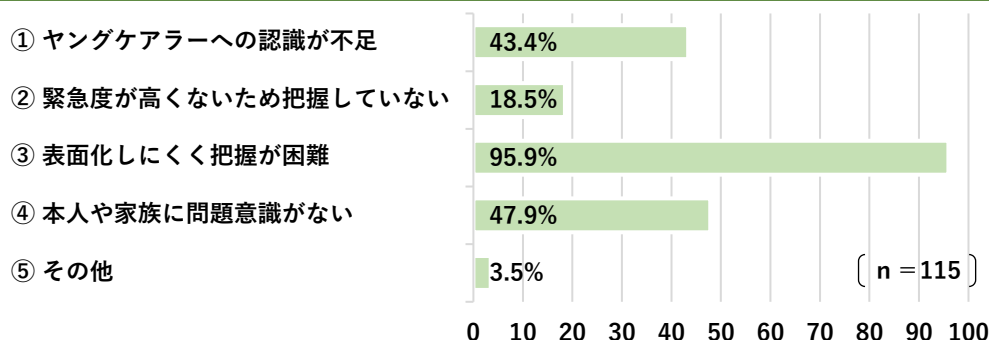


B-⑤ 中学校及び高等学校（公立）

問10(2) 実態把握をしていない理由

複数回答

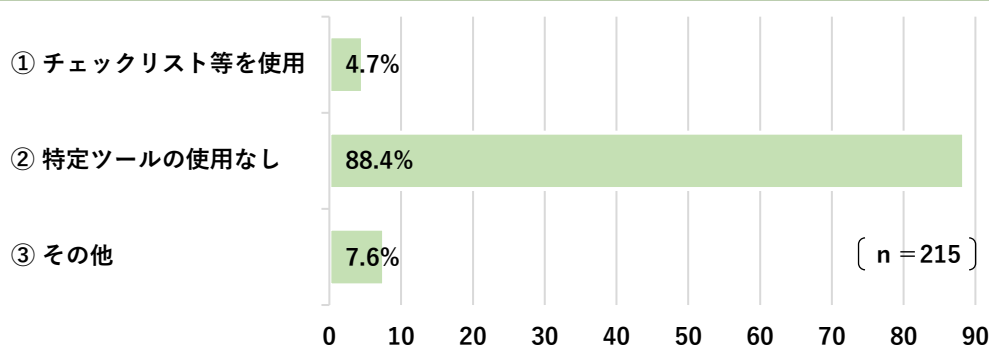
* 実態把握をしていない理由は、「③ 表面化しにくく把握が困難」が95.9%で最も多く、次いで「④ 本人や家族に問題意識がない」が47.9%となっています。



問10(3) ヤングケアラーの把握方法

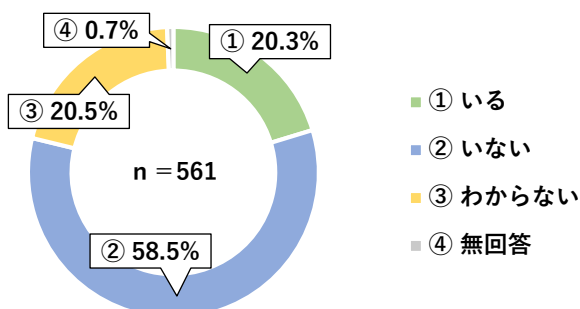
複数回答

* ヤングケアラーの把握方法は、「② 特定ツールの使用なし」が88.4%で最も多く、次いで「③ その他」が7.6%となっています。



問11 校内におけるヤングケアラーの有無

* 校内におけるヤングケアラーの有無は、「② いない」が58.5%となっており、「① いる」の20.3%を大きく上回っています。



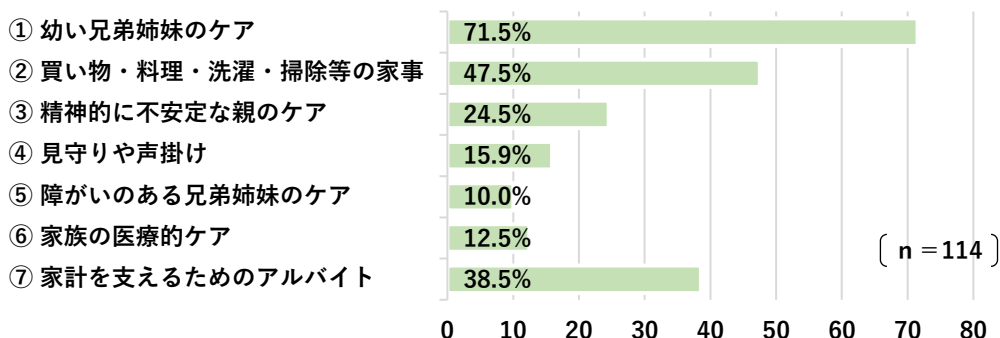
〔中学校 : ①17.5%、②67.5%
 高校（全日）：①23.8%、②40.2%
 高校（定時）：①40.0%、②44.0%〕

B-⑤ 中学校及び高等学校（公立）

問12 ヤングケアラーが行っているケアの内容

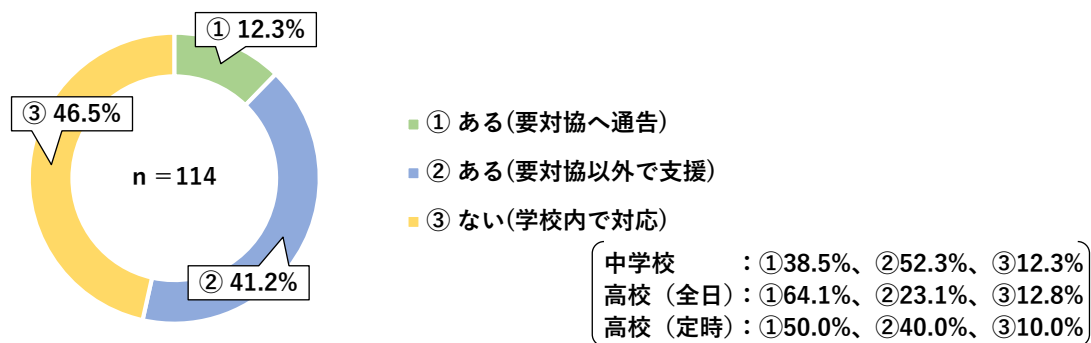
複数回答

* ケアの内容は、「① 若い兄弟姉妹のケア」が71.5%で最も多く、次いで「② 買い物・料理・洗濯・掃除等の家事」が47.5%となっています。



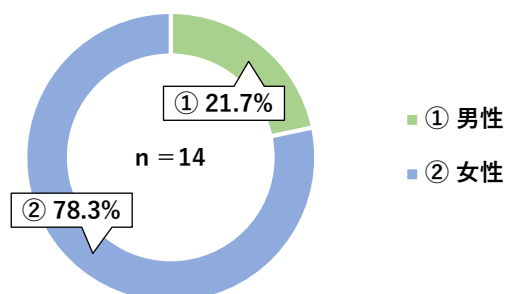
問13(1) ヤングケアラーを学校以外の関係機関につないだ事例の有無

* 事例の有無は、「③ ない(学校内で対応)」が46.5%となっており、「① ある(要対協へ通告)」 「② ある(要対協以外で支援)」の合計と概ね同程度になっています。



問13(2) 要対協へ通告したケースの性別

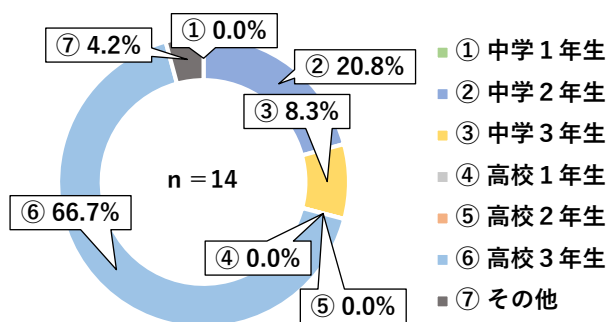
* 要対協へ通告したケースの性別は、「② 女性」が78.3%となっており、「① 男性」の21.7%を大きく上回っています。



B-⑤ 中学校及び高等学校（公立）

問13(3) 要対協へ通告したケースの学年

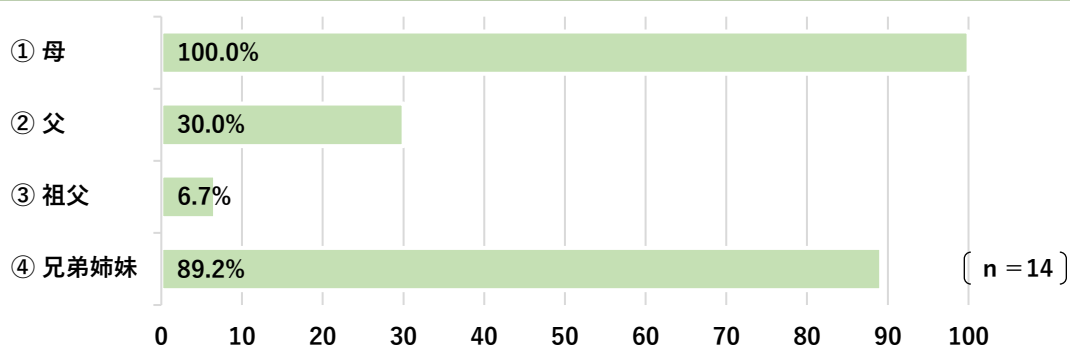
* 要対協へ通告したケースの学年は、「⑥ 高校3年生」が66.7%で最も多く、次いで「② 中学2年生」が20.8%となっています。



問13(4) 要対協へ通告したケースの同居家族

複数回答

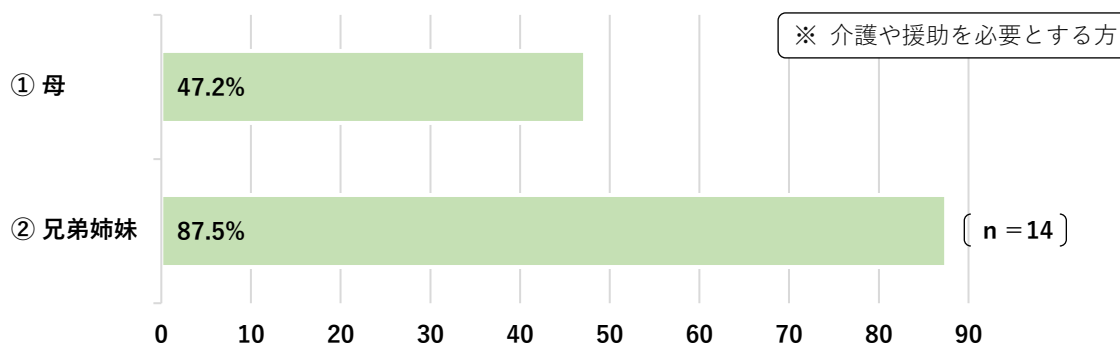
* 要対協へ通告したケースの同居家族は、「① 母」が100.0%で最も多く、次いで「④ 兄弟姉妹」が89.2%となっています。



問13(5) 要対協へ通告したケースの要ケア者（続柄）

複数回答

* 要対協へ通告したケースの要ケア者^{*}は、「① 母」が47.2%、「② 兄弟姉妹」が87.5%となっています。

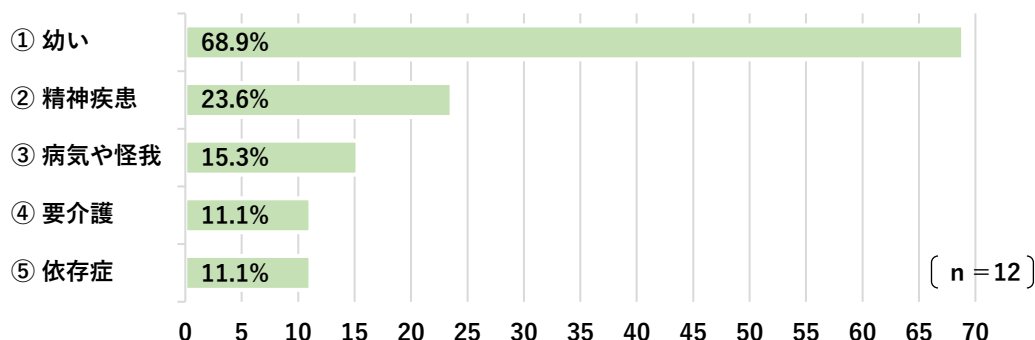


B - ⑤ 中学校及び高等学校（公立）

問13(6) 要対協へ通告したケースの要ケア者がケアを要する理由

複数回答

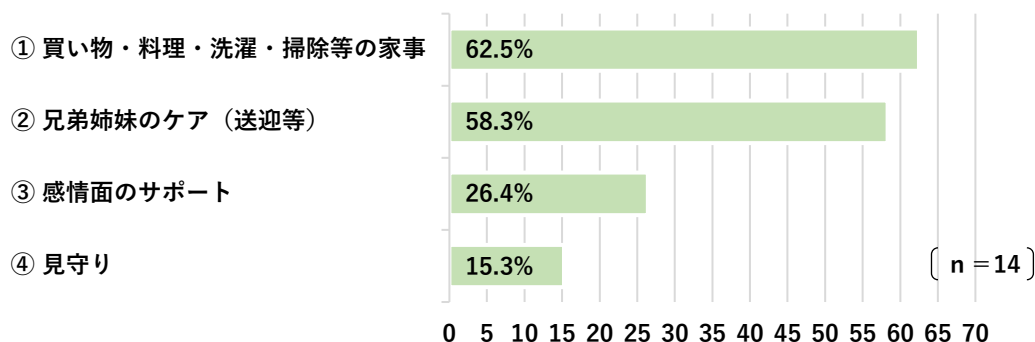
* 要ケア者がケアを必要とする理由は、「① 若い」が68.9%で最も多く、次いで「② 精神疾患」が23.6%となっています。



問13(7) 要対協へ通告したケースが行っているケアの内容

複数回答

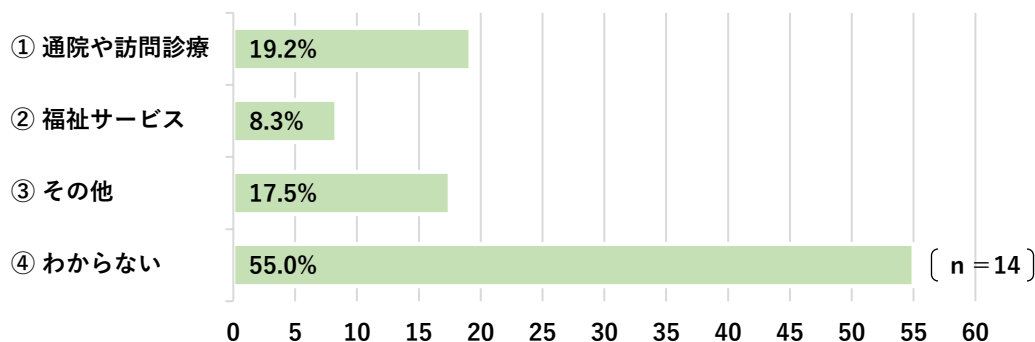
* ケアの内容は、「① 買い物・料理・洗濯・掃除等の家事」が62.5%で最も多く、次いで「② 兄弟姉妹のケア(送迎等)」が58.3%となっています。



問13(8) 要対協へ通告したケースの要ケア者が利用中のサービス

複数回答

* 要ケア者が利用しているサービスは、「④ わからない」を除き、「① 通院や訪問診療」が19.2%で最も多くなっています。

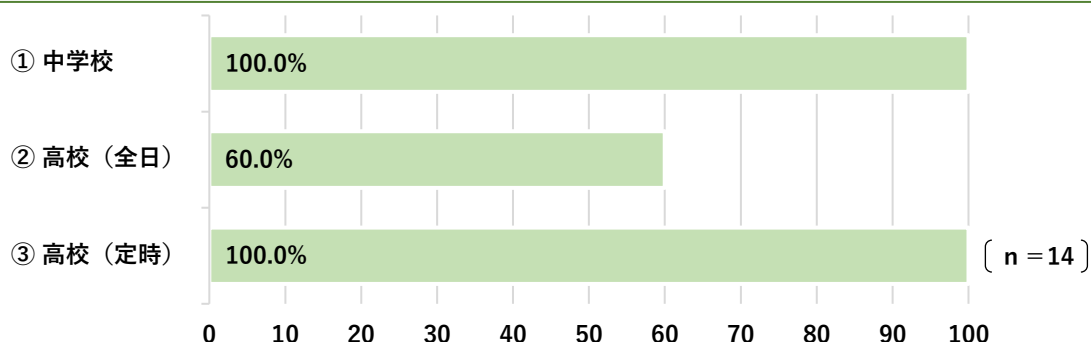


B-⑤ 中学校及び高等学校（公立）

問13(9) 要対協へ通告したケースのケアに関する状況把握

複数回答

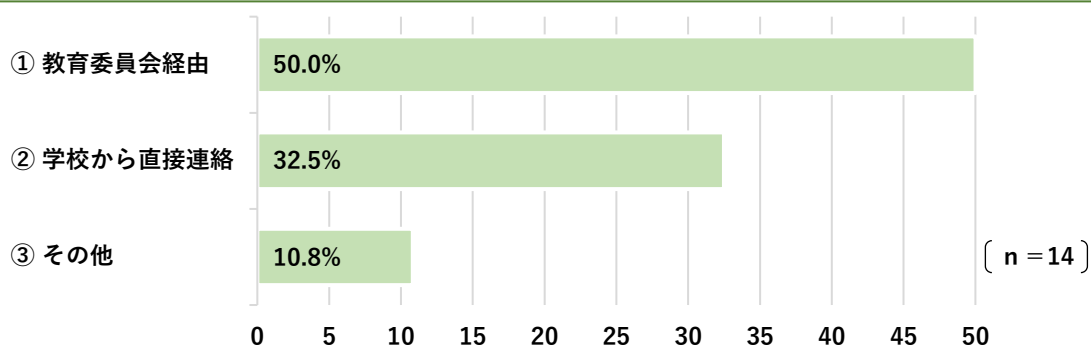
* ケアに関する状況把握をしている学校ごとの割合は、「① 中学校」「③ 高校(定時)」が100.0%、「② 高校(全日)」が60.0%となっています。



問13(10) 要対協へ通告した際の経由機関

複数回答

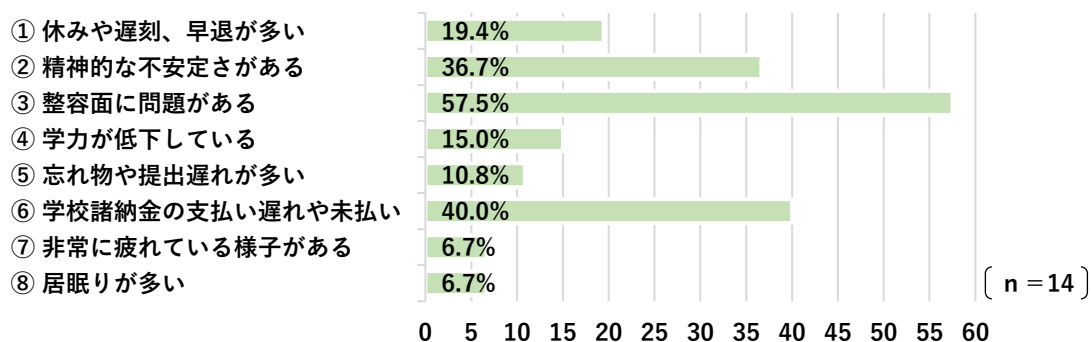
* 通告時の経由機関は、「① 教育委員会」が50.0%で最も多く、次いで「② 学校から直接」が32.5%となっています。



問13(11) 要対協へ通告したケースの学校生活の状況

複数回答

* 学校生活の状況は、「③ 整容面に問題がある」が57.5%で最も多く、次いで「⑥ 学校諸納金の支払い遅れや未払い」が40.0%となっています。

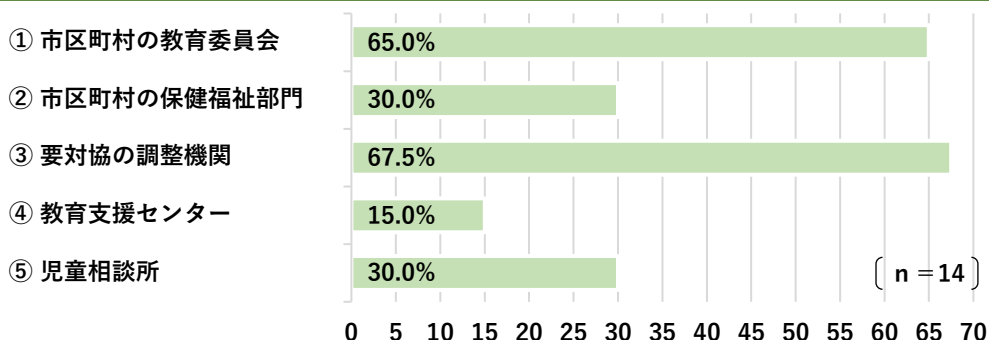


B - ⑤ 中学校及び高等学校（公立）

問13(12) 要対協へ通告したケースの対応で連携した関係機関

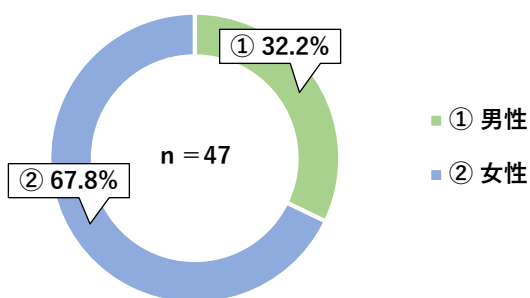
複数回答

* 連携した関係機関は、「③ 要対協の調整機関」が67.5%で最も多く、次いで「① 市区町村の教育委員会」が65.0%となっています。



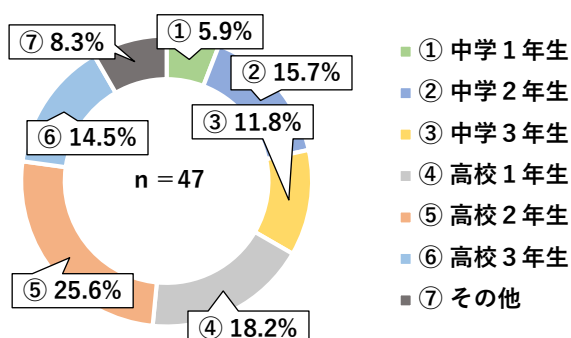
問13(13) 要対協以外で支援したケースの性別

* 要対協以外で支援したケースの性別は、「② 女性」が67.8%となっており、「① 男性」の32.2%を大きく上回っています。



問13(14) 要対協以外で支援したケースの学年

* 要対協以外で支援したケースの学年は、「⑤ 高校2年生」が25.6%で最も多く、次いで「④ 高校1年生」が18.2%となっています。

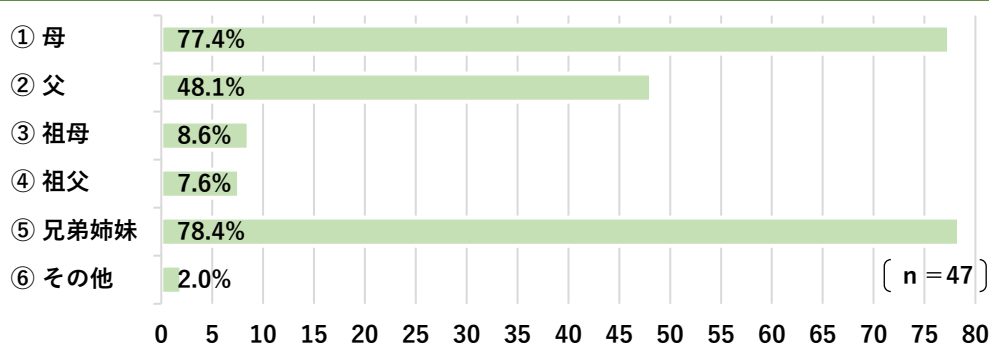


B-⑤ 中学校及び高等学校（公立）

問13(15) 要対協以外で支援したケースの同居家族

複数回答

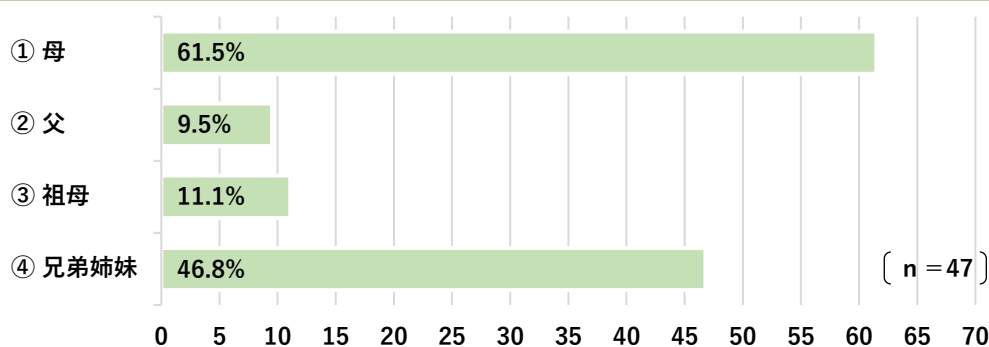
* 要対協以外で支援したケースの同居家族は、「⑤ 兄弟姉妹」が78.4%で最も多く、次いで「① 母」が77.4%となっています。



問13(16) 要対協以外で支援したケースの要ケア者（続柄）

複数回答

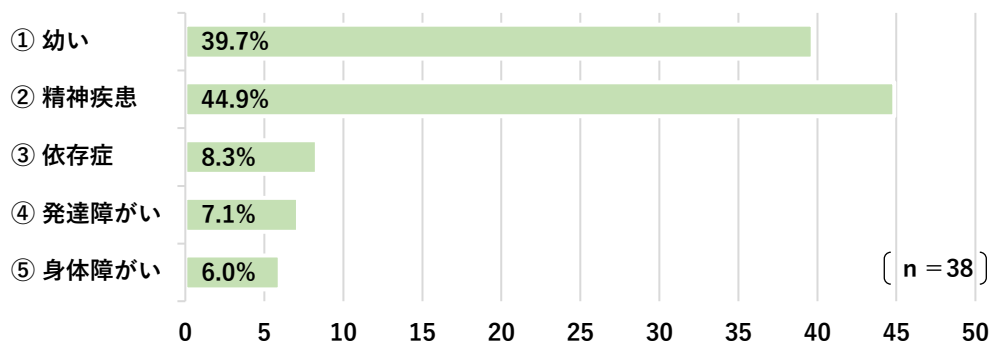
* 要対協以外で支援したケースの要ケア者は、「① 母」が61.5%で最も多く、次いで「④ 兄弟姉妹」が46.8%となっています。



問13(17) 要対協以外で支援したケースの要ケア者がケアを要する理由

複数回答

* 要ケア者がケアを必要とする理由は、「② 精神疾患」が44.9%で最も多く、次いで「① 若い」が39.7%となっています。

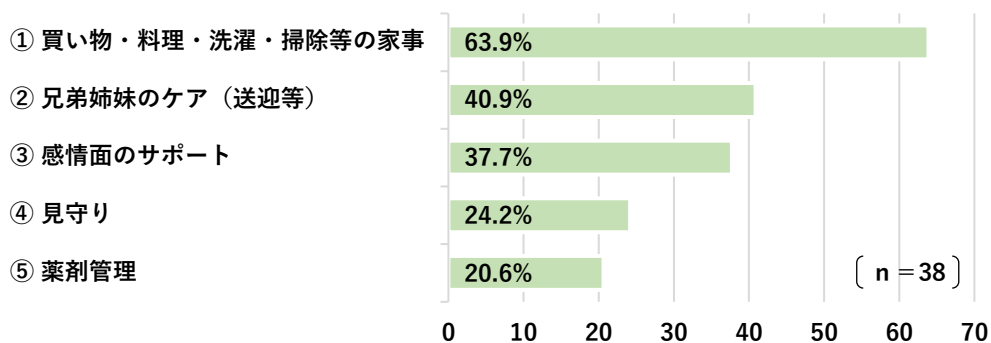


B-⑤ 中学校及び高等学校（公立）

問13(18) 要対協以外で支援したケースが行っているケアの内容

複数回答

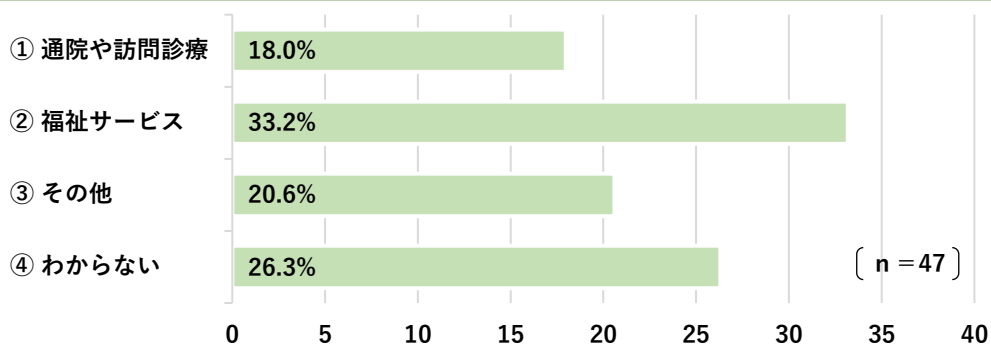
* ケアの内容は、「① 買い物・料理・洗濯・掃除等の家事」が63.9%で最も多く、次いで「② 兄弟姉妹のケア(送迎等)」が40.9%となっています。



問13(19) 要対協以外で支援したケースの要ケア者が利用中のサービス

複数回答

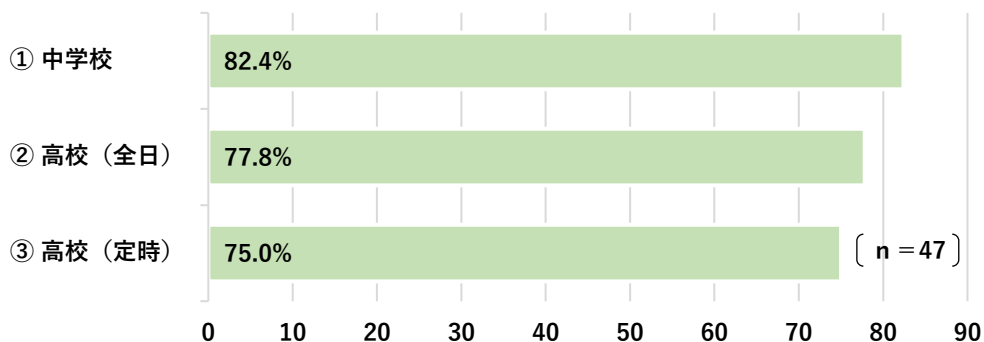
* 要ケア者が利用しているサービスは、「② 福祉サービス」が33.2%で最も多く、次いで「④ わからない」が26.3%となっています。



問13(20) 要対協以外で支援したケースのケアに関する状況把握

複数回答

* ケアに関する状況把握をしている学校ごとの割合は、「① 中学校」が82.4%「② 高校(全日)」が77.8%、「③ 高校(定時)」が75.0%となっています。

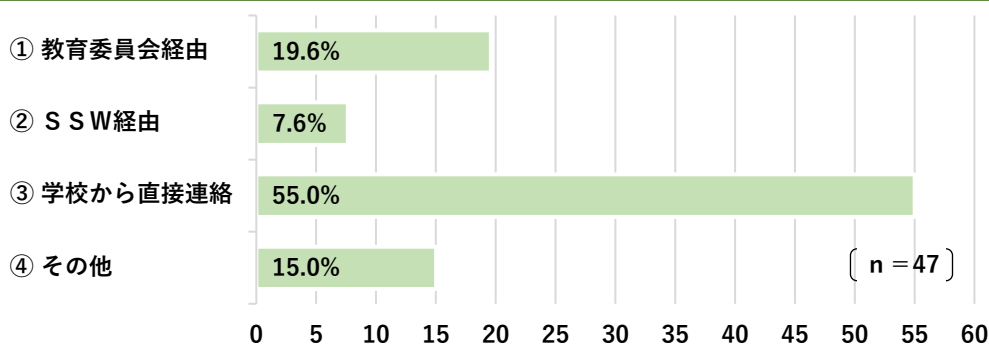


B - ⑤ 中学校及び高等学校（公立）

問13(21) 要対協以外の関係機関へつないだ際の経由機関

複数回答

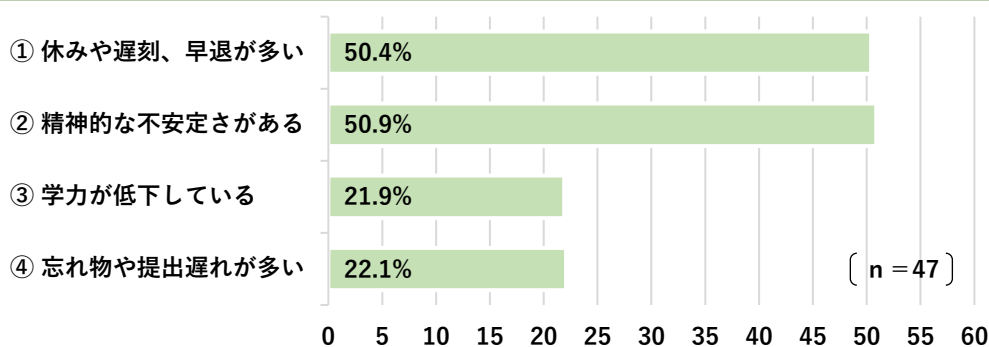
* 関係機関へつないだ際の経由機関は、「③ 学校から直接連絡」が55.0%で最も多く、次いで「① 教育委員会経由」が19.6%となっています。



問13(22) 要対協以外で支援したケースの学校生活の状況

複数回答

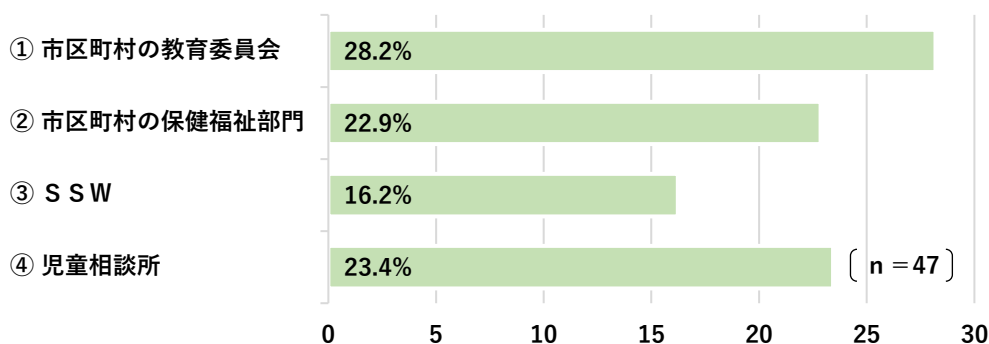
* 学校生活の状況は、「② 精神的な不安定さがある」が50.9%で最も多く、次いで「① 休みや遅刻、早退が多い」が50.4%となっています。



問13(23) 要対協以外で支援したケースの対応で連携した関係機関

複数回答

* 連携した関係機関は、「① 市区町村の教育委員会」が28.2%で最も多く、次いで「④ 児童相談所」が23.4%となっています。



B - ⑤ 中学校及び高等学校（公立）

問14 ヤングケアラー支援に必要な取組

複数回答

* 支援に必要な取組は、「② ヤングケアラーを知る（教職員）」が55.2%で最も多く、次いで「① ヤングケアラーを知る（子ども自身）」が50.9%となっています。

